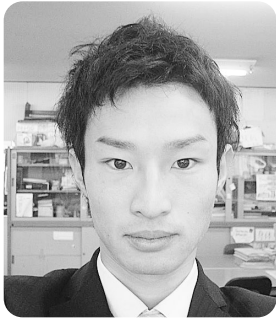




はつらっコフレッシュマン



拠点校指導の先生と出会い

西区 馬宮中学校 教諭 稲葉 敏 泰

多忙と緊張の毎日が続き、気が付けば1年の半分以上が過ぎようとしている。今年初任者として馬宮中学校に配属され、門をくぐったのが昨日のこのようである。この半年、初任者としてたくさんの方に、たくさんの方を教えていただいた。その中でも拠点校指導員の方との出会いは私にとって教師人生を左右する大きな出会いであったと思う。

私は今、授業をする上で次の3つのことを心掛けている。

まず1つは、「同時に2つのことを生徒にさせない」ということである。例えば、説明をする際には、必ずペンを置かせて、顔を上げて、体を私の方に向けさせてから説明を始める。そうすることで生徒は説明を聴くことに集中することができる。

2つ目として、「言葉は易しく、噛み砕いて使う」ということである。全く挙手がないときに、発問を生徒に理解しやすい言葉に変えると挙手が増える。易しく噛み砕いた言葉を使うことで、生徒は発問に対して考える意欲が湧くようだ。

3つ目として「生徒を動かす」ということである。具体的にいうと実験・観察などの体験的な活動をたくさん行うことである。机に座った説明ばかりの授業は、生徒にとって面白くも何ともない。授業において生徒が活動する場面がたくさんできるような授業づくりを心掛けている。

これらはすべて拠点校指導員の先生に教えていただいたことである。一週間に1度のその指導員の先生に授業を見ていただき指導していただく時間は私にとってかけがえのない時間であり、教えていただいた内容はどれも授業に生かせる素晴らしいものであった。

それは、先頃行った理科の授業に関するアンケートにも表れていた。「理科が好きですか」という質問に「好き」と答えた生徒が全体の7割以上いることが分かったのである。驚くと同時にこの半年の間、指導員の先生とつくりあげた授業の賜物であることを実感した。

理科の授業に対する要望や意見という欄には、「1年のころは、理科が好きじゃなかったけど、2年生になってからは授業が楽しいし、分かり易い」や「理科の授業が毎回楽しみだ」という意見があり、生徒が私の授業をそう感じていることが、素直に嬉しく今までの苦労が報われる思いであった。

初任者として指導員の先生と過ごす時間は残り少なくなってきた。しかし、私の教師人生は始まったばかりである。この1年間指導していただいたことを生かして、これからも理科好きの生徒が増えるような、分かり易い授業をつくっていこうと思う。そしてこのような授業づくりのきっかけを与えてくださった指導員の先生に、この場を借りて感謝の意を伝えたいと思う。ありがとうございました。

(いなば としひろ)